



# 京丹後市商工会だより

Kyotango City Society of Commerce & Industry

京丹後市商工会 京都府京丹後市峰山町杉谷836-1

TEL.0772-62-0342 FAX.0772-62-3553

URL: http://kyotango.kyoto-fsci.or.jp

●網野支所/TEL:72-1863 ●大宮支所/TEL:68-0038

●丹後支所/TEL:75-2222 ●久美浜支所/TEL:82-0155

●弥栄支所/TEL:65-3137(火・金のみ)



2017年  
1月8日発行

1  
月号

Vol.110

## 年頭挨拶



新年のご挨拶



京丹後市商工会

会長 沖田 康彦

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族お揃いで  
お健やかに新春をお迎えのことと心  
からお慶び申し上げます。

昨年中は、商工会の事業運営に格  
別のご理解とご協力を賜り、厚く御  
礼申し上げます。本年も相変わら  
ず、宜しくお願い申し上げます。

さて、平成17年から整備されてき  
ました山陰近畿自動車道野田川大宮  
道路が昨年10月30日に開通しまし

た。我が京丹後市にとって待ちに  
待った高速道路であり、これを契機  
として更なる観光消費の拡大や、こ  
れに伴う物や人の交流機会の増大に  
よる地域経済の活性化が期待されま  
す。

また、海の京都におきましては、  
観光推進体制強化のため海の京都  
DMOを設立され、北部7市町の観  
光協会の強固な連携を促進し民主導  
によるブランド観光地づくりに向  
けてスタートした年でもありまし  
た。着実に基盤整備がなされ、地域  
経済の活性化へ向けて飛躍できる状  
況が整ってきたと云えます。

こういった状況を成果に結びつけ  
るためには、市内の事業者の皆さま  
が大きな国内外の流れの中にあつ  
て、自らの経営をいかに改善し、地  
域や国際経済事情の中でそのポジ  
ションを明確化し、企業戦略を見出  
していくかであると存じます。

昨年、本会が策定した経営発達支  
援計画が経済産業大臣の認定をいた  
だき、事業者の経営戦略に踏み込ん  
だ支援をスタートさせております。  
当京丹後市におきましても、地域経  
済を支える小規模事業者にあつて  
は、需要の低下、売り上げ減少に直  
面していますが、その支援にあたり  
当面しては、その支援にあたり  
当面しては、その支援にあたり  
当面しては、その支援にあたり

## 「市民が輝き地域が輝く京丹後市に」



京丹後市長 三崎 政直

いたします。

さて、昨年は、10月30日に山陰近  
畿自動車道野田川大宮道路が開通  
し、高速道路時代の幕開けとなる記  
念すべき年になりました。多くの方  
から「京丹後市が近くなった」「便  
利になった」などの声を聞かせてい  
ただき、その効果の大きさを実感し  
ております。今年にはさらに、新名神  
高速道路の城陽・八幡間の開通が予  
定されておりますし、京丹後大宮IC  
Cの先線となる(仮)大宮峰山道路  
についても、順調に進めば数年後に  
は峰山町新町まで延伸される予定と  
なっているなど、今後、ますます高  
速道路網の充実とそれに伴う地域の  
賑わいが期待されるところでです。

さらに東京オリンピック・パラリ  
ンピックが開催される2020年  
は、本市におきましてもインパウン  
ドの推進による交流人口の増加な  
ど、地域の発展に向けた取組を進め  
るに当たって重要な年であり、加え  
て、本市の基幹産業の一つでもある  
丹後ちりめんの創業300年という  
節目の年でもあります。

皆様のご信託を賜り、市長に就任さ  
せていただきました。年頭に当た  
り、気持ちを新たにし、期待にお応  
えできるよう全力で市政運営に取り  
組んでまいりますので、市民の皆様  
のお力添えを賜りますよう、お願い

は、地域外市場から資金を稼いでく  
る産業の発達支援し、競争力を強化  
することが重要であると考えていま  
す。そのような状況を考えてみます  
と、ものづくりの機械金属産業・伝  
統的な織物産業、そして観光産業に  
おいて可能性を秘めた発展が期待で  
きるところであります。しかしなが  
ら、実情として十分な従業者を確保  
できていない人口減少という課題も  
あり、それらの歯止めを図る必要も  
迫られています。

本年も、京都府・京丹後市当局の  
ご指導頂戴し、また関係団体の皆さ  
まと密接な連携のもと事業推進して  
いきたいと存じます。

本年、当商工会は合併10周年が経  
過いたしました。会員皆さまのご理  
解をいただき、平成19年4月に丹後6  
町の商工会が一括になり、スタート  
いたしました。京都府内では最も早  
く、高度な経営支援体制を可能にす  
べく合併しました。

10年という一つの節目を迎えるに  
あたって、その足跡を振り返り、次  
なる10年に向けて会員皆さまに  
とって「役に立つ商工会」に向けて  
役職員一丸となり、本年も事業に邁  
進していく覚悟でございます。

どうか、今年もよろしくお願い申  
上げます。

今後、高速道路網の更なる充実  
や、東京オリンピック・パラリン  
ピックの開催、さらには丹後ちりめ  
ん創業300年など、当地域におい  
て大きな節目を迎えるに当たり、京  
丹後に数ある資源の全面展開を図る  
とともに、丹後ちりめんや機械金属  
などのものづくり産業を始め、本市  
産業の伝統や技術力の継承、豊富な  
魅力の発信に取り組んでいくことが  
重要であると考えています。

今年、第2次京丹後市総合計画  
の新たな基本計画がスタートしま  
す。こうした節目を機に地域が着実  
に成長・発展し、「市民が輝き地域  
が輝く京丹後市」を実現するため、  
基本計画に基づく様々な取組を進め  
てまいの所存でございますので、皆  
様のご協力をよろしくお願いいたし  
ます。

本年が商工会会員の皆さん、市民  
の皆様にとってご健勝で実り多い一  
年となりますよう心からお祈り申し  
上げ新年のご挨拶といたします。

## 共生社会の実現に向けて



京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、あけましておめで  
とうございます。

昨年は、地方創生の動きが本格化  
する中、オール京都の取り組みで文  
化庁の京都への全面的移転が決定す

は、地域外市場から資金を稼いでく  
る産業の発達支援し、競争力を強化  
することが重要であると考えていま  
す。そのような状況を考えてみます  
と、ものづくりの機械金属産業・伝  
統的な織物産業、そして観光産業に  
おいて可能性を秘めた発展が期待で  
きるところであります。しかしなが  
ら、実情として十分な従業者を確保  
できていない人口減少という課題も  
あり、それらの歯止めを図る必要も  
迫られています。

本年も、京都府・京丹後市当局の  
ご指導頂戴し、また関係団体の皆さ  
まと密接な連携のもと事業推進して  
いきたいと存じます。

本年、当商工会は合併10周年が経  
過いたしました。会員皆さまのご理  
解をいただき、平成19年4月に丹後6  
町の商工会が一括になり、スタート  
いたしました。京都府内では最も早  
く、高度な経営支援体制を可能にす  
べく合併しました。

10年という一つの節目を迎えるに  
あたって、その足跡を振り返り、次  
なる10年に向けて会員皆さまに  
とって「役に立つ商工会」に向けて  
役職員一丸となり、本年も事業に邁  
進していく覚悟でございます。

どうか、今年もよろしくお願い申  
上げます。

今後、高速道路網の更なる充実  
や、東京オリンピック・パラリン  
ピックの開催、さらには丹後ちりめ  
ん創業300年など、当地域におい  
て大きな節目を迎えるに当たり、京  
丹後に数ある資源の全面展開を図る  
とともに、丹後ちりめんや機械金属  
などのものづくり産業を始め、本市  
産業の伝統や技術力の継承、豊富な  
魅力の発信に取り組んでいくことが  
重要であると考えています。

今年が商工会会員の皆さん、市民  
の皆様にとってご健勝で実り多い一  
年となりますよう心からお祈り申し  
上げ新年のご挨拶といたします。

改めて関係の皆さまにお礼を申し上  
げます。  
しかし一方で、熊本地震や鳥取  
県中部地震など災害が相次ぐとも  
に、平成27年の国勢調査の結果から  
も、少子高齢化や東京一極集中の進  
行が改めて確認されました。また、  
北陸新幹線のルート選定過程でもク  
ロースアップされた地域間格差の問  
題や、増加する非正規雇用の問題、  
子どもの貧困問題など、社会構造の  
変化から生じる問題も深刻化しつづ  
かれています。

さらに、国際情勢を見ても、保護  
主義的な思想の台頭が顕著になるな  
ど、様々な観点から二極化が進んで  
おり、その中で争いの種が芽を出し  
始めていることに危惧を覚えています  
。また、昨年、神奈川県相模原市  
の障害者施設で起きた痛ましい事件  
は衝撃的でしたが、他者に対する尊  
重の念を忘れた事件も増加してきて  
いるような気がするのは私だけで  
しょうか。

共生こそ京都の文化  
今年京都府は、地域創生戦略に基づ  
き、「文化創生」により京都の価値  
を発信していくこととしています。私  
は、この京都の「文化」の中にこ  
そ、こうした時代に立ち向かう大き  
な答えがあると信じています。

京都府は長い歴史に彩られた地域で  
す。丹後王国として栄えた北部、平  
城京から恭仁京や長岡京など、遷都  
を繰り返しながら平安京に至った南  
部、豊かな森の恵みで都を支えた中  
部、それを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の

互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の

互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の  
互いを支え合ってきた京都市の

は、まさに、「共生の文化」というべ  
きものだと思えます。  
海と人、森と人、お茶と人と、京  
都府は新しい共生の道を探ってきま  
した。また、学研都市では、文化と  
学術の共生が花開こうとしています  
。この共生という文化こそ、京都  
が今世界に問わなければならない文  
化ではないでしょうか。

若者も高齢者も、女性も男性も、  
障害者も健常者も、ともに支え合っ  
て、お互いの個性を尊重することが  
できてこそ、はじめて持続可能な社  
会が成立し、将来に向けて共に発展  
する可能性が生まれるのではないで  
しょうか。

「もうひとつの京都」  
右か左か、黒か白かといった二者  
択一の対立と争いの中で、排斥と淘  
汰が繰り返される世の中だけでは後  
世に残したくありません。様々なもの  
が共生する中で、未来に向けて発展  
することのできる社会こそが、京都  
に生きる私たちが次の世代に託すべ  
きものではないでしょうか。

「もうひとつの京都」  
「海」「森」に続き、いよいよ「お  
茶の京都」の年を迎えます。舞台と  
なる山城地域は、「日本茶のふるさ  
と」として、古くからお茶の文化を  
支え、育んできた地域です。家族団  
らんの象徴であり、一期一会の文化  
の源であるお茶、そしてそれを支え  
る山城の景観。ここにも「共生の文  
化」が息づいています。「Discover  
Premium Green」のコンセプトのも  
とで、「お茶の京都博」で世界に京都  
文化を発信する年にしたいと思いま  
す。

そして、「もうひとつの京都」セ  
カンドステージを牽引する各地域の  
DMOのもと、地域やその地に暮ら  
す人々の結びつきを生かし、共に支  
え合って生きていく「共生の観光」  
を育んでいきたいと思っています。

共生社会の実現へ  
こうして本年、京都府は、子育て  
や医療、産業、労働、環境、観光な  
どあらゆる分野で、「共生」をキー  
ワードとして、府民の皆さまの生活  
に寄り添った施策を進めてまいりた  
いと考えております。「交流」と  
「文化」から生み出される「京都  
力」を存分に発揮し、京都から世界  
へ、100年後、200年後の未来  
へとつながっていく新たな「共生社  
会」の実現に向け、共に歩んでまい  
りましょう。

この一年の、皆さまのご健勝とご  
多幸を心からお祈り申し上げます。  
新年のごあいさつといたします。